

各位

金蘭千里中学校

本校入学者選抜試験問題に関するお願い

昨今、教育現場における著作権の在り方が議論されています。本校も、著作権法に基づいた著作物の適切な運用と管理に取り組んでいます。

本校の入試問題の利用につきましても、下記の点にご留意いただき、適切なご利用をお願いいたします。

記

1. 本入試問題の著作権は、本校に帰属します。複製の作成は、事前に申告いただいた場合のみ許諾します。
2. 本入試問題で引用している文学作品等の第三者の著作物は、関係団体を通じて、引用の許諾申請を行っています。

以上

令和7年度中学入試

[前期A・E 入試]

国語科 問題

注意事項

1. 試験開始の合図があるまで、この問題冊子の中を見てはいけません。

2. この問題冊子は、表紙を^{ふく}含めて 20 ページあります。

試験中に、印刷がはっきりしなかったり、ページの乱れや^ぬ抜け落ちに気づいたりした場合は、手を挙げて^{かんどくしゃ}監督者に知らせなさい。

3. 解答用紙は別に配布されます。解答はすべてその解答用紙に記入しなさい。

4. 問題冊子の余白等は下書きなどに利用してよろしいが、どのページも切り^{はな}離してはいけません。

[前期A・E 入試] 受験番号 _____

金蘭千里中学校

① 次の文章を読んで、後の問いに答えなさい。

「悪口はどうして悪いの？」と聞かれたとき、もったもXシンプルな答えは、「人を傷つけるから」というものでしょう。理由なく人を傷つけることは悪いことで、悪口も、足で蹴るといった身体的暴力と同じように人を傷つけるので、悪口は悪い、という発想です。

殴る、蹴るとは違い、悪口によって、血が出たり、顔がはれたりするわけではありませんが、場合によってはそれと同じくらいか、あるいはそれ以上の精神的なダメージを受けることがあります。結局、苦痛というのは脳の活動によって生み出され、身体の痛みも心の痛みも、似たような脳の働きに由来すると考えられています。身体が痛いことが悪いなら、心が痛いことももちろん悪いわけです。

子どものとき、「そんなこと言われたら傷つくでしょ、嫌な気持ちになるでしょ」と、注意されたことはないでしょうか。あるいは、大きくなってからも、「他者の気持ちになって行動しなさい」と言い聞かされたことはないでしょうか。私たちは人を傷つけることを避けようとします。

① 「悪口が悪いのは人を傷つけるから」という考えは、とても常識的ですが、悪口の悪さをそれほど説明できません。まず、悪口以外にも、人を傷つけることば、精神的なダメージを与えてしまう発言がたくさんあります。たとえば、「残念ながら不合格です」「私たち別れよう」のように、自分の期待や希望にそぐわないことを言われてしまうことは、誰にでもあります。そして、それによって、ときには立ち直れないほどに深く傷ついてしまうことすらあるでしょう。しかし、こうした発言は、もちろん悪口ではありません。ですので、ことばが人を傷つけるからといって、悪口になるとは限りません。

このYポイント^①を、論理的なことばを使って言いかえてみると、「人を傷つけることは悪口の十分条件ではない」となります。ここで十分条件の例をあげておきます。ある人が自分の卒業aシヨウシヨを受け取っていることは、その人が卒業したことの十分条件です。自分の卒業シヨウシヨがあることが、その人が卒業していることを十分に示しています。一方、出席日数が足りていることは、卒業の十分条件ではありません。たとえば、皆勤賞^{かいきんしょう}をもらっている人も、卒業するための他の条件を満たしていないかもしれません。すべてのテストが○点だと、卒業させてもらえない学校が多いでしょう。

ついでに、必要条件も説明しておきます。一定の出席日数があることは、卒業の十分条件ではありませんが、必要条件です。ある程度は出席することが卒業するために必要なわけです。一方、卒業式に出席することは、卒業するために必要ではありません。風邪をひいて卒業式に出席できなくても、卒業できなくなるわけではありません。卒業式への出席は、卒業の必要条件ではないのです。

また、人を傷つけることが、悪口の必要条件でないこともすぐに分かります。つまり、人を傷つけなくても悪口になる可能性があるのです。

言っていることが誰がどう聞いても悪口だが、言われた本人はまったく傷ついていない例を考えることは簡単です。(中略)

人間は、虐待ぎやくたいといった強烈なZストレスが与えられたとき、自分を守るために身体から心を切り離はなすことがあります。ぼーっとする、夢の中にいる気がする、自分の体験や感情を覚えていない、感覚が麻痺まひする、といった状態になります。たとえば、すぐくいじめられている人が、一種の自己bボウエイとして、何を言われても何も感じなくなってしまうとします。感覚が麻痺しているのだから、その人に何を言っても悪口にはならないのでしょうか。そんなことはないでしょう。たとえば、そこでたまたま傷ついていたとしても、痛みも何も感じなかったとしても、悪口は悪口だと私たちは考えます。

むしろ、人が傷つくかどうかや、cフカイフカイに思うかどうか、という基準ばかりに焦点しやうてんを当てることで不都合も生じます。いじめられている側が、「やめろバカ!」と、多少乱暴なことをばを使って、自分の身を守ろうとしたとします。そのとき、そのことばづかいは他人にフカイ感を与えるからやめましょう、などといじめられている側を注意したとすると、これほど不公平なことはいでしょう。

〈中略〉

ぴしっと厳しく叱しかられたり、批判されたりしたら、言われた側は、たとえ批判されるだけの十分な理由があると自覚していても、フカイに感じたり、居心地いこちが悪くなったりするものです。ことばの悪さが、フカイさや痛みのような感覚だけで説明されてしまうなら、まっとうな説教ですら悪口になってしまいますが、それはおかしな結論です。

したがって、人を傷つけるから悪口は悪いという発想で、悪口を理解することはできないのです。悪口がどうして悪いのか説明しようとするもうひとつの常識的考えは、悪意のせいだ、言う側の心の問題だ、というものです。私たちは、誰かを傷つけてやろう、嫌な気分きらしいにさせてやろうと思ひ、あるいはその人をバカにして、軽蔑けいべつして、悪口を言うことが確かにあります。そして、そのように人の悪意に触ふれることは、辛つらくて悲しいことです。悪口が悪いのは、さらには、悪口で傷ついてしまうのは、言う側の悪意が理由だ、という発想です。

②悪意を理由にするアイデアも、日常的な感覚に近いですが、あまり役に立ちません。先ほどと同じように、悪意は悪口の必要

条件でも十分条件でもないからです。悪意がなくても、悪口を言うことができます。つまり、悪意は悪口のI条件ではありません。たとえば、子どもの無邪気なことばはどうでしょうか。私も、三歳さい児とか五歳児といった小さな子どもに、「きらい」「くさい」などと言われることがあります。子どもがなぜそんなことを言うかという、言われた私の反応が面白おもしろいからです。子どもたちは、本当に屈託くつたくなく、にこにこそのようなことを言ってきます。遊んでいるだけで、心の底から、楽しい、うきうきとした気分きぶんで言うので、悪意と呼べるほどのものはありません。しかし、私はそんなことを言われると嫌なので、「そんなこと言わないで」と言います(やめてくれるわけではありません)。

周りのことがよく分かっている、小さな子どもは別の話で、関係ないだろう、と思われるかもしれませんが。しかし、子どものように無邪気に、あるいは子どものように何も考えずに、悪口を言ってしまう大人もたくさんいることもみんな知っています。たとえば、いじめの加害者の中には、本当に自分がいじめられているという自覚がない人がいるでしょう。「うざっ」や「きもっ」など

と言うとしても、「いじめ」ではなく「いじっているだけ」、なんだったら喜ばせている、と考えているかもしれません。

そのような場合、発言をする側に悪意はありませんが、私たちは悪口を言っていると考えます。つまり、悪口を言うために悪意を持っている必要はないのです。

〈中略〉

悪意は悪口にとって必要でないことを確認しました。またその一方で、悪意だけでは、悪口には届きません。悪意をどれだけ込めても、それが誰にも伝わらないようなことばを使う限り、発言は悪口にはなりません。つまり、悪意は悪口のみならず、II条件でもないのです。〈中略〉

もし悪意が発言を悪くする原因ならば、「悪気はなかった」という言い訳ひとつで、どのような発言も許されてしまいます。「悪気はなかった」に説得力がないのは、これが白々しい嘘だからではなく、悪気があるうがななろうが、発言に問題があるときはある、と私たちが考えるからです。

意図の有無はもちろん行為の罪深さに影響を与えると私たちは考えます。たとえば、「dカシツ傷害罪」とは、そういうつもりはなかったけれども、不注意などで人を傷つけてしまったときに当てはまる罪です。一方、「傷害罪」の方は、人を傷つけてやるという意図があるときに当てはまります。そして、カシツ傷害罪は傷害罪よりも軽い罪だとされています。しかし、わざとでないからといって、それが罪でなくなるわけではありません。事故でケガをさせられた人に向かって、「よかったねーわざとじゃなかったんだって！」という人はいないのに、不適切な発言の後に、「そういうつもりはなかった」と言う人が絶えないのは、おかしなことです。

〈中略〉

というわけで、意図や動機など、話し手の心の動きだけに注目しても、悪口がどうして悪いのかやはり説明できないのです。では**悪口は**どうして**悪い**のでしょうか。ここから、社会の中での立場という「ランク」の概念から悪口について考えていきます。

〈中略〉

さて、悪口でよく使われる「きもい」や「うざい」ということばは、比較をするための、「い」で終わることばの仲間（形容詞）です。たとえば、「高い」なら「AがBより高い」（比較級）「Cが一番高い」（最上級）といったように使われます。同じように、誰かが誰か「よりうざい」や、誰かが「一番うざい」と言うことができます。

「高い」とか「低い」はそれ自体（注1）ニュートラルなことばです。高ければ良い、ということはないですし、低ければ悪い、ということもありません（中年になると、健康診断で「尿酸値」が高いとすごくイヤですが、「給与」が高いのはすごく嬉しいものです）。

一方、「きもい」は「気持ちが悪い」を、「うざい」は「うざったい」を省略したもので、どちらもそもそも否定的な評価を表すことばです。ですので、「うざい」人は「うざくない」人よりも「良くない」「悪い」あるいは「劣っている」ということになり
ます。

さらに、「うざい」を使う人は、普通の場合、自分のことは「うざくない」と思っているのでしょうか。すると、誰かに「うざい」

といった悪口を言うことは、標的は自分より劣っているのだ（自分は標的より優れているのだ）、と言っていることになります。優劣という順番は、「上下」のランキングとしても理解することができます。悪口を言うことは、自分が暮らす（注2）コミュニティのランキングの中で、自分の方が標的よりも上位に立っているのだ、標的はより下位にいるのだ、ということを表示します。悪口は、一般的に、標的が自分よりもランクが下だと言うことなのです。これが、本書でのメインの主張になります。

自分が上、標的が下、というメッセージが悪口の基本の形になるため、いわゆる「人間以下」とみなされる、他の生き物を指すことばが頻繁に使われます。たとえば、部活をやっている、足が遅い人に向かって「なめくじ」とか、弱いチームを「ザコ」と呼ぶことを考えてみましょう。

なめくじはもちろん歩みがとても遅いわけですが、移動が遅いものならば、オーストラリア大陸だって少しづつ移動しているわけですから、標的に向かって「オーストラリア大陸か！」と言ってもいいわけです。オーストラリア大陸の方が、なめくじよりも移動速度は遅いのですから、むしろより適切なはずですよ。

しかし、③それだと悪口に聞こえませんか。私たちは普通、オーストラリア大陸が人間より上か下か意識したことはないでしょう。しかし、なめくじはぬめぬめした「下等な」生物とみなされています。なめくじと人間に同等の価値があると思う人はいないでしょう。

また、「ザコ」は「雑魚」のことで、つまり、いろいろな魚を指しています。雑多な魚、取るに足らない、名前もない小魚扱いをしている、ということになります。

もうひとつ大事なものは、悪口には、「うっとうしい」「なめくじのように足が遅い」といった具体的な内容があるわけですが、ランクを下げるというeカテンからは、その内容そのものがそれほど大事というわけではない点です。標的は人間ですので、そもそも、なめくじでもなければ、おさかなでもありません。しかし、当てはまらないから問題ない、とは誰も思わないでしょう。そのような人を軽んじた表現を使って標的を呼ぶという事実そのものが、社会的な影響を与えるわけです。おさかな扱いしても標的がヘラヘラしている、また周りが何も言わないなら、他の人も標的をそういう扱いにしてもよいだろう、ということが導かれてしまうのです。

悪口は、標的のランクを下げ、社会的な立ち位置をあやうくします。その結果、標的となった人物には不都合が生じ、なにかと生きづらくなります。だから悪口は嫌なことであり、フカイなことであり、屈辱的なことでもあるのです。そして悪口が悪いのは、そのような序列を作り出し、誰かを劣った存在として取り扱うことは悪いことだからです。

（和泉悠『悪口ってなんだろう』より 一部改めたところがある）

（注1） ニュートラル……中立であるさま。

（注2） コミュニティ……一定の地域に居住し、共同体意識を持つ人々の集団。

- (一) 波線部 a ㄱ e のカタカナを漢字に直しなさい。
 a ショウシヨ b ボウエイ c フカイ d カシツ e カンテン

- (二) 傍線部 X ㄱ Z の外来語の本文中での意味としてもっとも適切な二字熟語を次のア ㄱ エの中からそれぞれ一つ選び、記号で答えなさい。

X	シンブル	ア	究極	イ	确实	ウ	単純	エ	最低
Y	ポイント	ア	得点	イ	価値	ウ	要点	エ	文章
Z	ストレス	ア	重圧	イ	罰則	ウ	共感	エ	歓声

- (三) 傍線部 ㉠ 「「悪口が悪いのは人を傷つけるから」という考えは、とても常識的ですが、悪口の悪さをそれほどうまく説明できません」とあるが、その理由としてもっとも適切なものを次のア ㄱ エの中から一つ選び、記号で答えなさい。

ア 人は悪口よりもまっとうな批判をされた時のほうが心が傷つきやすく、精神的なダメージの大きさがどれくらいであるかで悪口を判断することができないから。

イ 人は悪口ではない言葉で精神的なダメージを受けたり、悪口によって心が傷つかなかつたりすることがあり、心の傷は悪口にとって必須要素ではないから。

ウ 悪口を言われて精神的なダメージを受けても身体的に傷つくわけではなく、心の傷の大きさを外部から評価することができず、発言が悪口かどうか判断できないから。

エ 人は悪口を言われると自分を守るために身体から心を切り離して何も感じないように心ができているので、悪口で心が傷つくことはありえないことだから。

(四) 傍線部②「悪意を理由にするアイディアも、日常的な感覚に近いですが、あまり役に立ちません」とあるが、その説明としてもっとも適切なものを次のア、イ、エの中から一つ選び、記号で答えなさい。

- ア 人々は発言の中に悪意を感じるかどうかで悪口を判断しようとするのが通常だが、悪口を言う側が相手を傷つけようと思っていない発言であることが多いので、結果として悪意は悪口かどうかの判断材料にならないということ。
- イ 人々が相手を傷つけようとしているかどうかで発言が悪口かどうかを判断しようとすることはごく当たり前のことだが、発言の中に込められた意図を感じ取ることは非常に難しく、多くの人にとっては不可能であるということ。
- ウ 多くの人々は発言に悪意が込められるから悪口が悪いのだと考えようとするが、本当に悪口を言いたい人は悪意が相手に伝わらない発言内容を考えるため、発言自体から読み取れる悪意だけでは悪口すべてを判断できないということ。
- エ 人々は一般的に悪口が悪いのと言う側が相手を傷つけようと思っていることが原因だと考えるが、結局は発言された表現によって悪口かどうか判断されるため、悪意の有無ではその発言が悪口かどうかを決められないということ。

(五) 本文中の I II に当てはまる語の組み合わせとしてもっとも適切なものを次のア、イ、エの中から一つ選び、記号で答えなさい。

- ア I … 必要 II … 必要
- イ I … 必要 II … 十分
- ウ I … 十分 II … 必要
- エ I … 十分 II … 十分

(六) 傍線部③「それだと悪口に聞えませんか」とあるが、その理由としてもっとも適切なものを次のア、イ、エの中から一つ選び、記号で答えなさい。

- ア 「オーストラリア大陸」は「なめくじ」とは異なり生物ではないので、人間よりも下であると見なされないから。
- イ 「オーストラリア大陸」は「なめくじ」と比べるとはるかに大きいので、移動速度が遅いのは当然のことだから。
- ウ 「オーストラリア大陸」という言葉によって精神的に傷つく人はいないので、発言者の悪意が感じられないから。
- エ 「オーストラリア大陸」が移動していることを知っている人は少ないので、悪口としての外的れに感じられるから。

(七) 太線部「悪口はどうして悪いのでしょうか」とあるが、その理由について、本文中では常識的な考えを示した上で筆者の考えが述べられている。筆者の考えを説明した次の一文の□に当てはまる言葉を八十字以内で答えなさい。

【常識的な考えに対して、筆者は、□と考えている。】

(八) 以下は本文を読んだ五人の生徒の意見である。筆者の主張に合わないものを次のア～オの中から二つ選び、記号で答えなさい。

ア 生徒A…「うざい」や「きもい」といった悪口は否定的な意味を持っていて相手を傷つける言葉だからという理由だけで悪口になるのね。

イ 生徒B…でも、第三者から見ると悪口だと思える言葉でも、否定的な意味を持つ言葉を言われた本人が傷つかない場合だってあるよね。

ウ 生徒C…その逆で、小さなこどもが否定的な意味を持つとわかっていなくて「うざい」や「きもい」を使うときもあると思うな。

エ 生徒D…それだけじゃなくて、明らかに否定的な意味を持っていなくても、足の遅い人を「なめくじ」って呼ぶことは悪口になると思うけど。

オ 生徒E…みんなの言うとおり、どんな言葉でも、相手の行動に対して批判したり否定したりすること自体が悪口になるんじゃないかな。

② 主人公の「都」は、大学を休学して一年間の留学生活をするはずだったが、一か月で辞めてしまい家に帰っていた。そしてそのことを家族以外のだれにも言えないままでいた。そんな時、交際相手の「菲沢竜太」の実家付近を台風が直撃したと知り、「都」は長野へ行き片付けを手伝うことにした。本文を読んで後の問いに答えなさい。

今にも雨が降りそうな曇り空の下、はるか遠くには、深緑色にも紺色にも見える山々が連なっている。風は涼しかった。作業着を羽織っているおかげか、肌寒いとまでは感じないものの、関東の平地より気温が低いのは確かだ。天氣のせいもあるかもしれない。

水の引いた道路の端に突っ立って、都は呆然と、眼下に広がるリンゴ畑を見下ろしていた。

正確には——リンゴ畑だったと、思しきところ。

避難所からここにやってくるまでの景色も、目を背けたくなるような惨状を呈していた。路面には泥が積もり、どこかから漂着した看板や折れた木々がいたるところに散らばっている。道路脇では電柱が傾ぎ、倉庫が横倒しになり、家の前庭や空き地に車が斜めになって突っ込んでいた。水圧で半壊した家屋や店舗も、いくつも見かけた。

それでも、畑は無事なのかと思っていた。

窓の外にちらちらと、綺麗な緑が見えていたから。

決して、そうではなかった。

近くから見ると、全然違う。

「……ひどいな」

隣に立ち尽くしている竜太が、憔悴した口調で呟いた。

車の中から見えた「綺麗な緑」は、木のてっぺんだけだった。

下のほうの葉っぱは、汚泥にまみれて茶色くなっている。木の幹はほとんど見えない。足元を覆う泥水に隠れているのだ。まるで濁った地面から枝が直接生えているかのような、素人の都が見ても明らかに異様な光景が、見渡す限り広がっていた。

「とりあえず、見て回ろうか」

竜太の向こうに佇んでいたお父さんが、都たちに向かって手招きをした。作業着の上下に長靴に軍手、身につけているすべてが借り物であることを申し訳なく思いながら、お父さんと竜太の後に続いて畑に下りる。

長靴を履いた右足を、恐る恐る、泥水の中に差し入れた。池のように深いのではないかという予想は外れ、すぐに足の裏が柔らかい地面を捉えた。都は安心して息をついたけれど、お父さんと竜太の表情は険しかった。

「だいぶ泥が入ったな」

「だね」

「水が完全に引いても、これは……」

親子の意気消沈した会話を聞いて、いっそうA肩身が狭くなる。安堵している場合ではなかったのだ。未だ木の幹のほとんど

が隠れているのに、足元の水が思ったより浅かったのは、それだけ高いところまで泥や土砂が堆積してしまつた証拠だつた。水が引いても、畑は到底、元の状態には戻らない。

二人の邪魔にならないよう気をつけながら、泥水の中をゆっくりと進んだ。

ほのかに紅く色づいた、これから収穫を迎えるはずだつたリンゴが、あちらこちらの水面に漂っている。蹴らないようにと気をつけていても、あまりにたくさんあるから、どうしても長靴に当たつてしまう。

他にも、浮いているものはたくさんあつた。大きな木片や無数の折れた枝、近くの家から流れ出してきたと思われる缶やプラスチックごみ、割れたトタン板、ビニールシート、バケツやカゴ。高所作業用の脚立やコンクリートブロックの一部が顔を覗かせているところもあつた。しばらく進んでいき、横転した軽トラックが二本の木の間に挟まれているのを見つけたときには、先を行く二人の大きなため息が聞こえてきた。

目を凝らしてみると、泥水の中に、たくさんの小さな影が動いている。

その正体が小魚のアムレだと気づき、ぎよつとして後ずさる。

「ダメだ。いったん戻ろう」

お父さんの声がした。粘り気のある泥に足を取られそうになりながら、車が停めてある道路へと引き返す。

長靴の爪先や踵をアスファルトに打ちつけて泥を落とし、次は農園の脇に建つ倉庫や貯蔵庫の様子を確認しにいった。畑よりは高いところにあるからきつと大丈夫さ、と竜太は①自分に言い聞かせるように繰り返していったけれど、入り口の扉を開けた瞬間に色を失つていた。

貯蔵庫の床には、汚れたリンゴや濡れた段ボール箱が散乱していた。台風前に収穫し、梱包を済ませて送り状まで貼つた状態の商品が、見るも無残な姿となり、茶色い水溜まりに浸かつていた。

農機具などが**ホカン**されている広い倉庫にも、都の身長ほどの高さの浸水の跡があつた。収穫時などに使う高所作業車も、肥料を**サンプ**する機械も、おそらくもう使えないだろうと、お父さんは抑揚のない声で言った。

「今月の初めから、ちょうど出荷作業が始まつたばかりだつたんだよ。無事に出荷できたのはせいぜい一割。見たところ、あとは全滅だ」

「あの……落ちて汚れちゃつたリンゴって、もう食べられないんですか。もし、洗えば大丈夫なら、私——」

「ありがとう。でも無理なんだ。大腸菌やら何やら、雑菌が中に入り込んであるかもしれないからね。一度でも水に浸かつたりリンゴは販売できない。そういう意味では、木に生っているリンゴも同じだよ。たぶん、あと数日したら、内側から腐つて勝手に落ちてくる」

後方の畑を振り返り、お父さんが言葉を続ける。

「ここらはね……昔から、水害が相次いできた地域なんだよ。田畑で普通に米や野菜を育てるのが難しいから、今から百年ほど前に、少しくらい木の根元が水に浸かつてもちゃんと実が収穫できる、リンゴの栽培が始まつたんだ。でも、この規模の氾濫が起きたんじゃ、さすがにどうしようもないね。大きな堤防だから、絶対に安心だと思つていたのに」

リンゴの木が育つには、十年以上かかる。

このまま根元が泥に埋もれ続ければ、木が窒息して死んでしまうかもしれない。そうでなくても、今回のことで木が病気になる危険性もある。

最大で四メートルほど冠水し、救命ボートやヘリコプターでの救出作業が行われているという隣の赤沼地区より、ここはまだましだ。

とはいえ、来年、リンゴの木々が無事に実をつけてくれるかどうかは、現時点では何とも言えない。そのときにならないと分からない。

「それ以前に、畑の土を全部入れ替えて、農機具も新しいのを買わなきゃならないからね。保険屋や銀行に掛け合って、無理なら最悪、廃業だ。家も直売所もぐちゃぐちゃだし、いったいどこから手をつけなければいいのやら」

お父さんの言葉には、悲しみや絶望といった感情は含まれていなかった。冷静に、淡々と、まるで他人事のように、氾濫の被害について語っている。

避難所で出会った葦沢家の人々が、意外にも朗らかに振る舞っていた理由が、やっと分かった。彼らはまだ、被災の事実を受け入れられていないのだ。

あまりのことに、心が空っぽになっているだけ。だから、食欲だって減らないし、軽口も叩くし、わざわざ声のトーンを明るくして、平気なふりをする。

思わず、竜太の顔に目をやった。都の視線に気がついた彼が、「まさかのまさか、だよなあ」と困ったように笑う。

「台風といえば風対策ってことで、家族総出で畑に出て一生懸命作業したんだぜ？ どうせこんなことになるなら、金曜のdコウキ、休む必要なかったわ。無駄に（注1）代返頼んじやったな。あとでみんなに謝っとこ」

二年前から親密にしてきた彼の、②その普段どおりの笑顔を信用してはいけないのだと、固く肝に銘じる。

畑はどうにもならないから、まずは自宅の片づけを優先しよう、というお父さんの判断に従って、車で竜太の実家に戻った。

先ほど作業着や長靴を借りるために立ち寄った自宅では、すでにお母さんとお兄さん夫婦が、濡れて使い物にならなかった家具や家電の運び出しを始めていた。

お兄さんが、「どうだった？」と畑の様子を尋ねてくる。竜太が簡潔に答えると、やっぱりな、という諦めの反応が返ってきた。それ以上感想を述べるでもなく、作業に戻っていく。

立ち止まって長話をする余裕などないのだということ、家の中を見れば分かった。

台所の流し台に引っかかるようにして、大きな冷蔵庫が横倒しになっている。ダイニングテーブルは元の位置から斜めにずれ、その脇に椅子が倒れていた。そして床一面が、厚さ数センチの泥に覆われている。

壁際の背の高い本棚を見ると、下半分の棚に並べられている書籍が茶色く変色していた。床上一メートルほど、だろうか。リンゴ畑よりは千曲川から距離があり、家の基礎部分も一段上げた造りになっていると竜太は言っていたけれど、それでも浸水の被害

は免れなかったようだ。

「保険の申請用の写真撮影はね、もう終わってるの。だから竜太と都さんも、そのへんのものをどんどん外に持って行ってくれる？ じゃないと、床の掃除ができないから。和室の畳も剥がさないといけないのよね」

鼻をつまみたくなるような下水の匂いが漂う中、お母さんのテキパキとした指示のもと、一階の家財を運び出す作業に加わった。靴。玄関マット。スリッパ。本。書類。ソファ。テレビ。カーペット。食器。洗濯カゴ。体重計。洋服箆筒。衣服。押し入れの下段に収納されていた布団やアルバム類。お兄さんか竜太のものであるう五月人形。外に置いてあった数台の自転車。

数えきれないほど、家の前庭と室内を往復した。同じ景色の繰り返しに、目が回りそうになる。隣の家も、向かいの家も、斜向かいの家も、同じように災害ゴミを道路脇に積み上げていた。午後になると、必死に働く住人に③追い打ちをかけるかのように雨がぱらつき始めたけれど、泥まみれの傘を差そうとする者は、誰一人としていなかった。

冷たい雨粒が、火照った額に前髪を貼りつける。作業着や長靴の中が、じつとりと汗で蒸れている。

しゃがむ e タイセイを取り、重いものを持ち上げるたび、息が弾み、身体の節々が軋み、腕や脚の筋肉が悲鳴を上げ始める。ろくに昼ご飯も食べず、無駄話も一切せず、大人 X 人で休むことなく作業をしているのに、家の中の物はなかなか減ったように見えなかった。大きくて古そうな木造の家には、家族の生活の痕跡が、あらゆるところにこびりついている。

一様に湿って薄汚れた品々を運び出す間、都の頭の中には、先ほど泥水を掻き分けて歩いたリング畑の風景が、絶えず浮かび続

けていた。憎らしいほどの茶色の中に交じった、元の美しい姿を彷彿とさせる、 Y 。

—— 分かつてはいけない。【 1 】

彼らの、この住人たちの悔しさややりきれなさを、自分なんか簡単に分かった気になっ

てはいけない。それなのに、涙があふれ出すのを止められなかった。土足のまま家に上がって、廊下に積もった泥を長靴で踏みつけるたびに。

今自分が何気なく手にしている家電や衣服に、どんな大切な思い出が詰まっていたのだろうと、想像するたびに。実家で穫れたリングを差し出してくるたびに、竜太の優しい手つきが、脳裏に蘇る。口ではうんざりしたようなことを言っ

ていたけれど、実家への敬意と思い入れが確かに伝わる仕草だった。か

つてその実をつけたリングの木は、もう再生しないかもしれない。竜太やこの住人たちが愛するふるさととは、元の形に戻ることがないのかもしれない。もしこれが、自分たち家族の住むあの町だったら——と考えた途端、余計に胸が押しつぶされそうになった。【 2 】

いいところも目立った個性もない、大量生産品のような地方都市だと、心の中で、ずっとバカにしていたはずなのに。自分のプロフィールに箔をつけたいからと、軽い気持ちで一年間の海外留学を決め、一秒でも早く抜け出したいと願ってしまうくらい、家

や地元には愛着がないと思っ

ていたのに。飛ぶのに失敗して傷つ

いた情けない自分を、あの町は、当たり前のようにまた受け入れてくれた。

そんな唯一^{ゆいいつ} Z の故郷が、もし、今回のような自然災害や、顔も知らない偉い^{えらい}人の思惑^{おもわく}で、消えてしまったとしたら。

——あんな場所でも、生まれ育ったふるさとだから。

ふと、三日前に聞いたおばあちゃんの言葉が、耳の中で木霊^{こだま}した。

(注2) 瑞^{しる}ノ瀬^せの人たちは、どう感じていたのだろうか。【3】
別れ話を切り出そうとしていた交際相手のふるさとが、川の氾濫により姿を変えてしまっただけでもこんなに苦しいのに——
ましてや自分が生まれ育った場所が、丸ごと湖の下に沈^{しず}んでしまうなんて。

やっぱり、つらかったのかな。

ねえ、ママ。

おばあちゃん。

都には、想像を巡^{めぐ}らすことしかできない。二人に直接問いかけて、それらしい答えを引き出したところで、きっと真に理解することはできないのだろう。【4】

ふるさとというのは、(注3) 刹那^{せつな}的なものなのかもしれない。

永遠にそこにあるという保証は、思えばどこにもないのだ。

でも、守りたい。

少なくとも、竜太たちはその一心で、今も手を動かし続けているはずだ。

濁流^{だくりゅう}に吞^のまれてなお、B ころうじて以前の姿をとどめている彼らのふるさとを、失わせたたくない、失わせるわけにはいかない

——そんな本能的な使命感を胸に、都は作業着の袖^{そで}で汗と涙を拭^{ぬぐ}いながら、必死に家の中と外とを往復し続けた。

やがて、日が暮れ、手元が見えなくなるまで。

(辻堂ゆめ『山ぎは少し明かりて』より 一部改めたところがある)

(注1) 代返^{しろかえ}……大学で、授業に欠席している者が出席確認の返事を代わりにしてもらうこと。

(注2) 瑞^{しる}ノ瀬^せ……都の祖母や母が住んでいたところ。都が産まれる前にダム建設のため、湖の底に沈んでしまっていた。

(注3) 刹那^{せつな}的^{てき}……今のことしか考えないさま。

(一) 本文中の波線部 a、b、c、d、e のカタカナを漢字に直しなさい。

a ム(れ) b ホカン c サンプ d コウギ e タイセイ

(二) 傍線部 A・B の本文中での意味としてもっとも適切なものを次のア～エの中からそれぞれ選び、記号で答えなさい。

A 「かたみ肩身が狭せまくなる」

- ア 自信がなくなる
- イ 引け目を感じる
- ウ 気弱になる
- エ ゆううつになる

B 「かろうじてかろうじて」

- ア うま上手く
- イ なんとなく
- ウ なんとか
- エ しかたなく

(三) 傍線部①「自分に言い聞かせるように繰り返く返かえしていた」とあるが、この時の竜太の気持ちの説明としてもっとも適切なものを次のア～エの中から一つ選び、記号で答えなさい。

- ア リンゴと同じように、倉庫や貯蔵庫の中のものも水に浸かっているかもしれないという不安を打ち消して希望を持ちたいという気持ち。
- イ リンゴと同じように、倉庫や貯蔵庫の中のものも水に浸かっているかもしれないという不安よりも期待の方が大きいという気持ち。
- ウ リンゴと同じように、倉庫や貯蔵庫の中のものも水に浸かっているにちがいないという恐怖きょうふを高さのせいにしたいたいという気持ち。
- エ リンゴと同じように、倉庫や貯蔵庫の中のものも水に浸かっているだろうという不安があるが都に気づかれないようにしたいという気持ち。

(四) 傍線部②「その普段ふだんどおりの笑顔えがおを信用してはいけけないのだ」とあるがそれはなぜか、その理由を本文中の言葉を用いて八十字以内で説明しなさい。

(五) 傍線部③「追い打ちをかける」とあるが、これとほぼ同じ意味の語句としてふさわしくないものを、次のア～エの中から一つ選び、記号で答えなさい。

- ア 弱り目に祟り目
- イ 泣きつ面に蜂
- ウ 傷口に塩を塗る
- エ 敵に塩を送る

(六) 本文中の X・Y・Z に入る言葉について、X には漢数字を、Y には漢字一字の語を本文中から探して、Z には「唯一〇〇」という四字熟語となるように漢字二字の語を考えて答えなさい。

(七) 次の一文は本文中の【1】～【4】のどこに入るか、数字で答えなさい。

【目の前でせつせと家から物を運び出している竜太やその家族の気持ちを、よそ者である都が正確に推し量れないのと同じように。】

(八) 本文の内容を説明したものととして最も適切なものを次のア～エの中から一つ選び、記号で答えなさい。

- ア 都は、竜太のふるさとが被災したことや祖母のふるさとがダムで沈んだことに思いを馳せることで、これまでいいように思っていなかったふるさとが自分にとってかけがえのない大切なものであることに気づくことができた。
- イ 都は、留学生生活を長く続けることができずに帰国したことを情けなく思い、その気持ちを竜太に打ち明けたかったが、被災したことで自分より苦しい思いをしている竜太に負担を掛けることはできないので言わずにいた。
- ウ 竜太の父親は、リンゴの木々が被災したあとも実をつけてくれることは分かっているのに、土の入れ替えや農機具を購入することを計画しており、悲しみや絶望といった感情はできるだけ持たないよう心がけている。
- エ 竜太は、リンゴ畑や家が元どおりになるよう都が遠くから来て協力してくれていることに感謝し、これ以上心配させることがないように、弱気な発言は父親に対してだけと決めて明るく気丈に振舞っている。

【③は18ページと19ページにあり、横書きになっています。設問は19ページから始まります。】

宇都宮線 久喜～古河駅間を直通する列車の運転計画

4月28日(日)最後の列車

下り 上野駅を19:50頃、大宮駅を20:20頃発車する列車まで
新宿駅を19:30頃、大宮駅を20:10頃発車する列車まで

上り 宇都宮駅を19:50頃、小山駅を20:20頃発車する列車まで

4月29日(月・祝)最初の列車

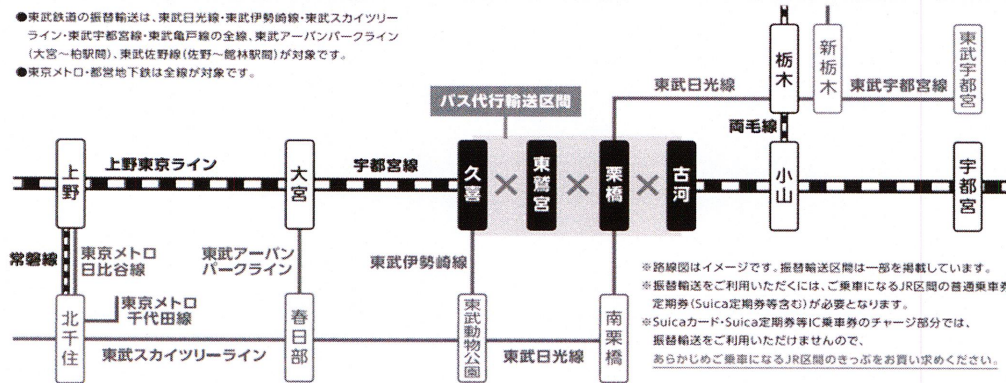
下り 上野駅を7:10頃、大宮駅を7:40頃発車する列車から
新宿駅を7:20頃、大宮駅を7:50頃発車する列車から

上り 宇都宮駅を7:20頃、小山駅を7:40頃発車する列車から

※運転計画は変更となる場合があります。

東武鉄道・東京メトロ・都営地下鉄へ振替輸送を行います

- 東武鉄道の振替輸送は、東武日光線・東武伊勢崎線・東武スカイツリーライン・東武宇都宮線・東武亀戸線の全線、東武アーバンパークライン(大宮～柏駅間)、東武佐野線(佐野～鹿林駅間)が対象です。
- 東京メトロ・都営地下鉄は全線が対象です。

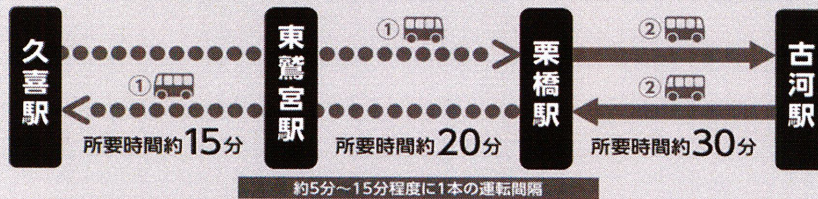


バス代行輸送について

運転時間 4月28日(日)21:00頃～終電、4月29日(月・祝)初電～8:00頃

①久喜～栗橋駅間を東鷲宮駅経由で運転

②栗橋～古河駅間で運転



- 時間帯によってバスの本数が異なります。 ●代行バスの所要時間は道路事情や混雑等により、さらに時間を要することがあります。
- バス代行輸送をご利用いただくには、ご乗車になるJR区間の普通乗車券、定期券(Suica定期券等含む)が必要となります。
- Suicaカード・Suica定期券等IC乗車券のチャージ部分では、バス代行輸送をご利用いただけませんので、あらかじめご乗車になるJR区間のきっぷをお買い求めください。
- 久喜駅及び古河駅での列車と代行バス、栗橋駅での代行バス同士の接続はございません。
- 久喜～古河駅間を直通するバスの運転はございません。

ご迷惑をおかけいたしますが、ご協力をお願いいたします。



(JR 東日本公式ウェブサイトより。一部削除したところがある)

- (六) 4月28日の23時ごろ、宇都宮線久喜～古河間は運休していなかった。
- (七) 今回の運休の理由の一つは古利根川の橋の改築工事であった。
- (八) 宇都宮市は栃木県の県庁所在地であるが、古河駅のある古河市は茨城県にある。
- (九) 今回の運休の際、(JR)宇都宮の代わりに東武宇都宮を振替輸送利用の際に利用することができた。
- (十) 今回の運休の際、東鷲宮から栗橋までは、代行輸送のバスで、必ず20分で結ぶ予定であった。

③以下のJR東日本宇都宮線久喜駅～古河駅の運休を知らせる【チラシ・表】と【チラシ・裏】を読んで後の問いに答えなさい。なお、この運休はチラシの内容通りに実施されたものとします。

【チラシ・表】

宇都宮線(一部区間)運休のお知らせ

2024年

4月28日(日)21:00頃 → 4月29日(月・祝)8:00頃

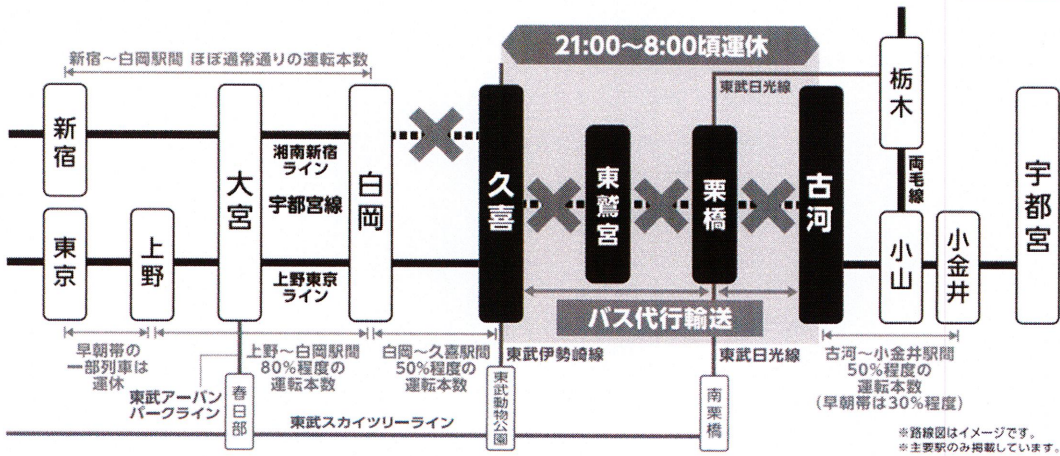
※悪天候等により工事が実施できない場合は、6月8日(土)21:00～6月9日(日)8:00頃に延期になります。

河川改修に伴う古利根川橋りょう改築・線路切換工事のため、宇都宮線に関係する線区の運転計画は以下のとおりになります。

宇都宮線 (上野東京ライン・湘南新宿ライン) **久喜～古河駅間を運休**
 久喜駅で上野方面へ
 白岡駅で新宿方面へ
 古河駅で宇都宮方面へ それぞれ折り返し運転
 ※29日早朝帯の一部列車は東京～上野駅間を運休

高崎線 (上野東京ライン・湘南新宿ライン) **通常運転**

工事時間帯は東武鉄道・東京メトロ・都営地下鉄への振替輸送をご利用ください。
 (バスによる代行輸送は大幅に時間を要する場合がございます。)



問 次の(一)～(十)について【チラシ・表】【チラシ・裏】の内容から読み取れるものに「○」読み取れないものに「×」とそれぞれ書きなさい。

- (一) 今回の運休にともない、東京～上野間で列車が運休したのは2024年4月28日であった。
- (二) 今回の運休の際、上野から東京メトロと東武鉄道の振替輸送だけを使って栗橋に向かうことができた。
- (三) 今回の運休の際、小金井～宇都宮間では一切列車は運休しなかった。
- (四) 今回の運休の際、新宿発の湘南新宿ラインは、久喜の手前の白岡で折り返した。
- (五) 今回の運休の際、久喜から古河へ代行輸送のバスで向かうには途中の東鷲宮で必ず乗り換えが必要だった。

①

(八)	(七)			(四)	(二)	(一)
					X	a
					Y	b
				(五)		
					Z	c
					(六)	
					(三)	d
						e

②

(七)	(五)	(四)			(二)	(一)
					A	a
					B	れ
(八)	(六)					b
	X				(三)	c
	Y					
	Z					d
						e

③

(九)	(五)	(一)
(十)	(六)	(二)
	(七)	(三)
	(八)	(四)

得点	
受験番号	

①

(八)	(七)				(四)	(三)	(二)
ア	だ	扱	う	悪	工	X	a
	から	われ	序列	口		ウ	証書
オ	た	た	が	よ	(五)	Y	b
	ら	標	作	つ	ウ	ア	防衛
	た	的	り	て	イ	Z	c
	に	に	出	発		ア	不快
	不	不	さ	言	(六)	(三)	d
	都	合	れ	者	ア	イ	過失
	合	が	劣	が	ア	イ	e
	生	生	っ	上			観
	じ	る	た	位	の	は	観
	る	の	存	標			
	は	は	在	的	悪	い	点
	い	い	と	が	こ	と	
	と	と	し	下	と		
			て	位			
			取	と			
			り	い			

②

(七)	(五)	(四)				(三)	(二)
4	工	な	悲	は	竟	A	a
		い	し	被	太	イ	群
		か	み	災	ほ	B	れ
		ら	や	の	平	ウ	b
	X	ら	絶	事	気	ア	保
	六	望	望	実	な		管
		と	と	を	ふ	(三)	
		い	っ	入	り	ア	c
	緑	い	た	れ	を		散
		っ	た	て	し	布	d
	Z	た	感	ら	て	講	義
	無	感	情	れ	て	一	体
	一	が	が	て	い		勢
		あ	あ	い	い		
		る	る	な	る		
		に	に	い	が		
		ち	ち	だ	本		
		が	が	け	当		
		い	い	て			

③

(九)	(五)	(一)	(十)	(六)	(三)	(七)	(三)	(八)	(四)
○	X	X	X	X	○	○	○	X	○

得点	
受験番号	